

平成23年 6月 1日

茨城県立図書館長 猪瀬 幸己 殿

茨城県図書館協議会委員長 手塚 克彦

図書館の資料収蔵庫（兼資料保存センター的機能）の確保について
（建議）

ますます多様化・高度化する県民のニーズに的確に応えるため、また、地域や住民の課題解決を支援するため、図書館はより一層の資料の充実が求められている。そのため、県立図書館では平成13年3月移転を伴う新館を開館し、19年3月には地下書庫の積層化を行い収蔵能力を向上させてきた。

しかし、現状の県立図書館の収蔵能力ではあと数年で書架がほぼ満杯になってしまう。今後も増加するであろう資料をどこに保存すべきか喫緊の課題として解決を迫られている。

また、茨城県内の図書館は、どこでも資料の保存場所の確保に苦慮している。永遠に増え続ける資料に対し、施設の収蔵能力に限界がある以上、図書館がそのすべてを保存していくことは不可能である。そのため、各図書館では収蔵能力に見合った形で廃棄しているのが現状である。しかし、県内個々の館の資料は県民全体の財産であることから、県立図書館が中心となり資料保存を図る必要がある。

そこで、当協議会では、県立図書館の資料収蔵庫及び資料保存センター的機能の確保について協議を行ってきた。

ここに協議結果をまとめ、以下のとおり建議する。茨城県立図書館におかれは、建議内容の実現に積極的に取り組み、県立図書館としての役割を一層発揮することを期待するものである。

- 1 県立図書館は平成13年3月の新館開館以来、10年が経ったところである。移転開館に伴う改修の中で、本館収蔵能力については、76万5千冊を設定し、平成18年度にはこの収蔵能力を勘案して、地下書庫の積層化を行った。

表1 過去の蔵書数の推移

(冊)

年 度	開架書庫 (雑誌分)※1	閉架書庫 (雑誌分)※2	本館計	本館 収蔵能力	三の丸書庫
13	136,975 (32,000)	264,090 (103,000)	504,065	765,000	206,126
14	149,454 (32,000)	278,914 (103,500)	531,868		200,605
15	156,426 (32,000)	302,507 (104,000)	562,933		205,300
16	177,350 (32,000)	312,333 (104,500)	594,183		209,572
17	180,524 (32,000)	336,264 (105,000)	621,788		210,061
18(積層書架増設)	189,313 (32,000)	358,372 (105,500)	653,185		211,227
19	188,131 (32,000)	382,988 (106,000)	677,119		212,149
20	188,802 (32,000)	400,711 (106,500)	696,013		212,209
21	189,852 (32,000)	416,959 (107,000)	713,811		212,229
22	180,016 (32,000)	442,940 (107,500)	730,456		212,251

※1 ()内は開架書庫の雑誌分で書架スペース以上には配架しないため収蔵能力に含めない

※2 ()内は閉架書庫の雑誌分で図書用の書架に配架されているため収蔵能力に含める

しかし、年々増え続ける図書や雑誌等の資料により、平成21年度末現在、書架の空き状況は10%程度となっており、今後、購入と寄贈をあわせると年間2～3万冊程度の図書資料の受け入れが考えられることから、あと2年程度でほぼ満杯となる見込みである。

表2 過去5年間の増加状況

(冊)

	18年度	19	20	21	22
本館図書受入冊数	31,113	23,595	18,656	17,404	17,761
うち購入	19,137	13,952	10,196	6,584	5,614
うち寄贈	11,976	9,643	8,460	10,820	12,147
雑誌増加数	500	500	500	500	500
計	31,613	24,095	19,156	17,904	18,261

表3 今後の増加見込み冊数及び本館収蔵余力の推移

(冊)

		22年度	23	24	25	26	27
本館収蔵能力 (A)		765,000	765,000	765,000	765,000	765,000	765,000
年度内 増加冊数	購入	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300	5,300
	寄贈	11,800	10,000	8,500	8,500	8,500	8,500
	増加計	17,100	15,300	13,800	13,800	13,800	13,800
年度末館内図書冊数 (B)		623,911	639,211	653,011	666,811	680,611	694,411
年度末館内新聞・雑誌数 (C)		107,500	108,000	108,500	109,000	109,500	110,000
本館収蔵余力 (A-B-C)		33,589	17,789	3,489	▲ 10,811	▲ 25,111	▲ 39,411

※購入……今後も現在と同水準の資料費を確保していくものとして積算

※寄贈……緊急雇用対策予算がなくなる平成24年度に減少し、以後は同水準で推移するものとして積算

そのため、収蔵能力の限界への対応について、財政状況も勘案しながら早急に検討していかなければならない。また、茨城県における図書館資料の保存センター的機能の確保についても同様である。

表4 過去の寄贈数の推移

(冊)

	15年度	16	17	18	19	20	21	22
本館寄贈図書受入数	9,859	10,471	7,938	11,976	9,643	8,460	10,820	12,147
うち市町村立図書館より	308	5,326		2,452				

※市町村立図書館よりの冊数は、把握できているもののみ記載した

2 資料保存の取り組みは、都道府県立図書館において、市町村立図書館を含めて取り組んでいるところもある。滋賀県立図書館では、収蔵能力50万冊のほかに、100万冊収蔵可能な書庫を増設しており、神奈川県立川崎図書館では高校の廃校を利用して図書約4万冊、雑誌約1,700タイトルの整理保存を行っている。本県では市町村立図書館で除籍した図書について、県立図書館で未所蔵の図書は引き取るほか、受け入れを希望する他の市町村立図書館や県立学校等に寄贈している。

3 もとより県立図書館内の開架及び閉架書庫の拡充はこれ以上不可能である。県立図書館に近い、現在、団体貸出用書庫として活用している「三の丸書庫」の検討や、他県の例をふまえて、児童・生徒数の減少により、統合や廃校になった県内の小・中・高の空き教室等及び使用されなくなった公的機関の施設等を対象に検討を行ってみた。

しかし、資料を保管するためには、セキュリティや資料によっては空調の設置が必要になるなどの管理上の問題があることや、建物の構造上2階以上は使用出来なかったり、遠くて不便だったり、近郊にあっても他の用途があるなどして空き教室や公的機関の施設等は断念せざるを得ない状況であった。

● 検討施設の具体例

(1)那珂湊第二高校：光熱費、警備等に費用がかかり、距離もあるため不適

(2)自治研修所：県警が機動隊庁舎として利用するため不可

(3)その他：市の施設、小学校等を検討したが、他の用途あり

4 以上のように検討した結果、スペースの確保については、「三の丸書庫」が県立図書館に最も近くて、また敷地内に増築できるスペースがあることから、「三の丸書庫」に個人貸出用図書を収蔵できる書庫を増築することが適当と考えられる。

建物の増築を行うことにより、保存センター的機能も含めた収蔵可能なスペースを確保することができる。

なお、今後も増え続ける資料の収蔵庫として、三の丸書庫のみならず県関係施設等の有効利用を引き続き検討していくべきである。

●今後検討すべき施設

- (1)職業人材育成センター：改修が必要であるが，書庫としての利用は可能
- (2)小川高校：使途未定なので可能性はあるが，光熱費等の管理の問題あり

また，市町村立図書館からの除籍図書や寄贈図書の保存においては，県立図書館として各々の資料が必要かどうか精選しなければ膨大に増えていくことが予想されることから，今後の収蔵スペースを考慮しながら図書館資料の有効な利活用に努めることが必要である。